

「学ぶ」——一層の前進のために——

会長 鈴木 精成

寒暖の移ろいの激しさに戸惑いを感
じさせられたこの春先でしたが、確
実に季節の変化が感じられる候とな
りました。恒例の春の「千代田岳精
会」が四月廿一日無事終了いたしま
した。佐藤精堂、越智龍麗両先生を
ご担当としてお迎えしての会でも上
受審者数一七一名は昨年を甘名も指
る大盛会でした。両先生の懇切な指

院吟日本流精岳

ちよあ

第 4 5 号

平成 2 5 年 5 月

千代田岳精会弘報

平成二十五年岳精流指標

学 ぶ

導は、大きな指針になったことと、
に大きな指針になったことと、
します。響かせ方、あるいは詩情の表
母音の響かせ方、あるいは詩情の表
など多くのアドバイスがありました。
これ等をこれから大いに生かして
たいものですね。改め、二人の先生
に感謝申し上げます。お二人の先生
受審者の審査会の特筆されることは、
譜「吟の真摯な取り組みの表れであ
審査への評価した取組の表れであ
大いなるため、懸命に学んだことは、
受け入れたい。財産も増えたと
よう。ならば、切に増えたと
す。今年も、年初から階層別の研修
詩歌、演奏、数多くの舞、自作の
千吟会等、数多くの舞、自作の
れています。過言ではない、研
と言っています。機会はない、思
と折角のこう言は、研
ては意味が「ありませぬ、研
「研修告知板」を見、積極的
をお勧めします。を、積極的
を、積極的
それ、その立場で、自分
識や技術の立場、深く
切や技術の立場、深く
この際、自身の指導力を磨くため
この際、自身の指導力を磨くため



石橋花 2
星野 久風 (清水)

方に（励んで頂きたいと思
々々）か、相手が、内容が、
ついて、私も、伝わる、
教わり、私も、伝わる、
振返る、手、伝わる、
画の、四、代、田、岳、精、会、の、今、年、の、計、
各、場、中、は、互、の、連、携、を、通、じ、て、全、教、場、
が、よ、り、活、性、化、す、る、こ、と、を、目、指、し、て、全、教、場、
す、が、よ、り、現、況、は、い、ま、一、歩、の、進、歩、を、目、指、し、て、全、教、場、
とな、り、ま、す。全、教、場、の、交、流、が、元、氣、あ、る、こ、ろ、を、目、指、し、て、全、教、場、
と、な、り、ま、す。全、教、場、の、交、流、が、元、氣、あ、る、こ、ろ、を、目、指、し、て、全、教、場、
の、よ、い、教、場、つ、くり、に、お、互、い、が、努、め、ま、し、
よ、う、の、よ、い、教、場、つ、くり、に、お、互、い、が、努、め、ま、し、
習、会、の、今、年、の、取、組、方、針、の、中、に、「無、料、講、
と、が、取、り、上、げ、ら、れ、開、催、し、ま、す。か、う、と、無、料、講、
施、の、運、び、上、げ、ら、れ、開、催、し、ま、す。か、う、と、無、料、講、
の、方、の、運、び、上、げ、ら、れ、開、催、し、ま、す。か、う、と、無、料、講、
ユ、の、方、の、運、び、上、げ、ら、れ、開、催、し、ま、す。か、う、と、無、料、講、
通、じ、て、喜、び、の、輪、が、ま、す。か、う、と、無、料、講、
何、つ、り、推、進、し、て、い、き、たい、と、思、い、ま、す。か、う、と、無、料、講、
も、つ、り、推、進、し、て、い、き、たい、と、思、い、ま、す。か、う、と、無、料、講、

っばいでした。
嬉しい限りでございませう。これを励みに一歩づつ進んで行きたいと思っております。皆様の指導宜しくお願い申し上げます。

品川区吟詠コンクール大会の思い出

新宿 半村 晃

吟詠コンクール、これは吟ずる者が吟道を競い合う場であるが、私にとつては今まで積み重ねてきた吟の力がどこまで向上したのか、又、自分がどれだけ楽しんで吟じられるかを試す場である。と考えると、頑張れ、参加した。よし本番だ、頑張れ、自分に言い聞かせながら舞台上で「秋思」を精一杯吟じます。と心の中で叫びながら声を出した。「あつと言間二分間」であつた。楽しく吟じることが出来たと思ふ反面、もう少し吟じたい思いが心によき結果発表だ、実力者が揃う吟者の中で「入賞・優秀賞」なんて有り得ないと思つていたから、自分の名前が文化センター内にアウンズされたときは驚いた。まさかまさかの優秀賞！信じられない。まさかまさかの優秀賞！仲間から「よかつたね、おめでとう」と声をかけられた時は体が震える思いであつた。幸運なことだ、田岳精会新宿教場で学んだのが幸いしたと思う。先生方は熱心な指導と工夫された教育、しかも厳しさがあつて、適宜適切な助

言を頂いたのが良い結果として表れたことだ。最後に吹きたいと思ふ。来年の目標は東京大会に出ることだ！先生方教場の皆さん、ご指導ご支援宜しくお願いします。

港区吟詠コンクール入賞

鎌ヶ谷 柳川 交山

去る三月三〇日の港区吟詠コンクールに初出場し、幸運にも入賞する事が出来ました。偏に、岩崎精慶先生、田龍翠先生、荻教場長、そして仲間の皆様の指導、ご協力のおかげと心から感謝申し上げます。有難うございませう。振り返ってみますと、去年、岩崎先生、太田先生の教室で、両先生から、独吟コンクールの出場してみたら、お勧めの場を頂き、荻教場長に相談したところ、励まされ、ヨシと出場を決めました。大会日と季節感が近い「清明」を選びました。以来大会まで教室の時間の前半をコンクール吟に充てていただき、練習を重ねました。タイピングや音程が合わず、絶句の連続で練習の大半を出しませんでした。大会が近づく中、結果、自然に絶句がなくなり、全体の吟も落ち着いてきました。大会当日、出番の前にマイクに音声が入っていき、指示がありまし

たので姿勢を前かがみにして吟じました。絶句する事もなく、同時に現在の事が出来、ホッと自分なりに納得のいく力量からして、自分なりに納得のいく吟だと満足しました。このコンクールの経験を活かして更に上級を目指し努力を積み重ねていきたいと決意を新たにしました。

港区連コンクール大会のこと

鎌倉 藤谷 初男

私は、鎌倉教場に入会させて頂き、二年余りです。以前、「いろは」は判って頂きたつもりでしたが、色々指導して頂き、昔の癖が出てしまひ、思ふように調節が出来ず、随分悩ましの課題吟を「吉野懐古」に決め、いざやってみると、昇伝審査の課題吟と同じものが選んだ自分はまだ、ここでも岩崎先生の熱心なご指導で、何とか入り、これで頂きました。自分なりに精進して参りたいと思ひます。

詩吟は人生の燈明

新宿 坂口 鎮穂

新宿教場の初訪問が、昨年の九月、最初の氾濫。奇妙な節回し、意味不明な用語とあきらめた。唯、師範が失礼と、会社同期の為、早々の退散は失礼と、社か月程辛抱した。どうかせならと師範のテンプを繰返した。聞き、真似することに

を上げて見ると、同行の愛犬が不思議な顔をして、見上げていた。

ある日、師範の命令で皆の前で吟ずる破目となった。よし、ど素人の吟がどれほど酷いものか聞いてみる、駄馬がいなけりや、名馬が目立たない。と、やけくそにやった。ところが、これが馬鹿受け。あんなに褒められたのは、生まれて初めて、後で、あれは新人繫ぎ止めの手だと言う奴もいたが、どに、かく良い気持になって、どっぷり漬かってしまつた。

「豚もおだてりや、木に登る」と言う叱られるより、褒められる方が、人はやる気が出るようだ。唯、「褒める」と「おだてる」とは異質のもの。口先だけで相手を気楽に「おだてる」のと、相手の長所を懸命に探して、「褒める」とでは、その努力に格段の差があり、相手もそこに感じるものがあるのだから、このあたりを、じっくりと考えれば、今、問題の糸口があるのではなからうか。解決の糸口があるのではなからうか。

今年、コンクールで入賞させていた。だき、今後、多くの木に、どん登った。てやろうと、やる気十分。人生の黄昏道を歩む者の道筋に、明る光を灯してくれたもの、まさに、「詩吟は人生の燈明である」



廿五年度温習会 千代田全会員が一堂で開催

会員の増加に伴い、ここ数年三グルーブ、二グルーブで実施してきた温習会は、各グルーブが無意識のうち、温習年大会に近い構成としてしまひ、温習会本来の趣旨から離れてしまひ、温習反省から、今年の温習会を見直して、ましたが、幸運にも三〇〇名の会員でも収容できる会場が確保でき、次の通り開催します。

日時 十一月十三日(水)
場所 北とびあ つつじホール
アクセス 東京都北区王子一―一
地下鉄南北線王子駅五番
徒歩 二分

準備委員会は、これからの千代田を支える期待のメンバーを各教場から選抜、犬飼堯山事業部長の下、一月から発足、更に五月実行委員会に移行し、具体的内容の詰めを行なっています。

鈴木会長港区連副理事長就任

現在、千代田は港区、品川区に所属して諸行事に参加しています。詩吟界全体の高齢化で、会員の減少傾向が見られるなか、千代田は健闘して、ますます有力会として相応の区運営へ参加要請が他会から高まり、この度鈴木精成会長が港区副理事長に就任され、副会長が数年前から会計担当理事として運営に参加され、お品川区では、菅原龍琴の一端を担うことになり、両区とも運

総伝認許五名に

一月一日付けで、総本部指導本部員でもある、次の方々を流統最高位である総伝の認許を受けられました。お目出とうございます。

常任顧問
常任顧問
会長

岩崎 精慶
林 精吾
鈴木 精成
(敬称略)

現在、春の昇伝審査終了の五月一日、一名、中伝五十五名、皆伝十名、奥伝四十八名、無伝百廿六名の会員構成となっております。

平成廿六年度 昇伝審査指定吟題

初伝 中庸 元田 東野

中伝 風庸 白 居易

折楊柳 揚 巨源

半夜 良 寛

短歌(自由選題、教本の中から選ぶ、A、B、C型のどれでもよい)

奥伝 柴 王 鉉 維

江南の故人に寄す 家 中から

俳句(自由選題、教本の中から選ぶ)

皆伝 島崎 藤村
春 竹を吹く 杜 甫

